

まちは住民の力で

「男女共同参画会議2008いわき」が6月22日(日)、市総合保健福祉センターで開催されました。これは男女共同参画社会基本法(H.11.6.23施行)の理解を深めるため設けられた「男女共同参画週間」(平成13年度から毎年6月23日～29日)に合わせて、市主催で行っているものです。今年は男性も多く、各地域から市民約200人が参加しました。

会議に先立ち、市男女共同参画センター開所3周年記念事業として募集した『あなたからのメッセージ』入賞者表彰式が行われました(最優秀作品は7ページに掲載)。次にキャスター堀尾正明さんの基調講演と、シンポジウムではふくしまNPOネットワークセンター監事の松田英明さんをコーディネーターに、3人の地域代表をパネリストに迎え意見を交わしました。

基調講演要旨

あなたが主役でまちが輝く～ご近所から始まる男女共同参画～



堀尾 正明(ほりお まさあき)キャスター

1955年岡山県生まれ。1981年NHK入局。北九州、福岡、大阪放送局を経て、1993年から東京。

これまで「スタジオパークからこんにちは」「サンデースポーツ」「ハートをつなごう」などの番組キャスター、紅白歌合戦やサッカーワールドカップの総合司会などを担当した。2008年3月末に同局エグゼクティブ・アナウンサーを退職。52歳。

はじめまして、元NHKアナウンサーの堀尾です。

今、どうして地域が自ら力を出し、輝かなければならないのかという背景からお話したいと思います。主な理由が3つあると考えます。1つは急速な人口減少です。晩婚化もあって2004年をピークに人口が減っており、このまま減り続けると2055年には8900万人になってしまいます。経済活動が縮小し、税収が今の3分の2になるにも関わらず、高齢化も進めば社会保障費が1.6倍になると予想されます。こうなると国も地方も財政が苦しくなり、行政サー

ビスが行き届かなくなります。2つめは小泉改革で国から地方にお金がありなくなり、さらに、住民の要望が変化し多様化したことです。3つめはコミュニケーションの欠落です。挨拶もしないし、隣人の顔さえわからず、「あの人泥棒かしら？」と疑心暗鬼に陥ります。

2003年に視聴者参加番組として「難問解決!ご近所の底力」が始まりました。この番組が生まれたひとつの動機は、向こう三軒両隣、農耕民族のみんなが何かをやるという力を復活させようということでした。行政や警察にたよらずに自分たちで知恵を出し合い、自分たちでまちを動かすということです。

第1回放送に登場した杉並区馬場地区では、女性をリーダーとして「ご近所付き合い広目隊」を結成、地域パトロールと挨拶運動を始めたところ、5年前に毎年100件あった空き巣被害が、番組に出て1年後に0となりました。石原都知事から特別表彰を受け、その後の活動で警視総監賞を受けました。住民たちは活動を通して、世代を超えてコミュニケーションがとても豊かになったということです。

女性がリーダーを務めるとうまくいくということがあります。包容力と柔軟性があり、いろいろと聞き入れることができるからです。

まちづくりのプロジェクトを成功させるためにはリーダーの存在、リーダーの頭の柔軟性、そして志の高さがとっても必要なことだと思います。

これからはちょっとした工夫や知恵を身につけていかなければなりません。ご近所の困りごと解決に向けてみんなで動き出してほしいと思います。